

旧日本郵船株式会社小樽支店

- 物件名：旧日本郵船株式会社小樽支店
- 住所：色内3-7-8
- 電話：22-3316
- 所有者：小樽市
- 運営：NPO法人歴史文化研究所
- 主任と人員：山下紘由（館長） 3人
- 建物履歴：
 - 明治39年 旧日本郵船株式会社小樽支店
 - 昭和30年 小樽市に譲渡
 - 昭和31年 小樽市博物館
 - 昭和44年 国重要文化財指定
 - 昭和59年 原形復元修復工事
 - 昭和62年 竣工と同時にナショナル・アセットとして開館
 - 平成18年 NPO法人歴史文化研究所に運営管理を業務委託
 - 平成25年 保存修理（調査工事）のため閉館
 - 平成27年 暫定再開（工事開始まで）



外観

■外観

- ①左右対称／表玄関を中心に左右対称、北面に貴賓用横玄関を配し、背面両翼に張り出すコの字型平面。
- ②外壁／厚さ約75センチメートルの小樽天狗山産軟石、腰・胴蛇腹・軒部分は登別産中硬石を使用。

■内観

- ①玄関／大理石敷き横玄関。
- ②手摺り／繊細な木彫の大階段手摺り、美しく精緻な中心飾り等格調高い装飾が調和。
- ③シャッター／米国製のスチールシャッター、建具金物類を用いる。
- ④暖房／地下にボイラー室を設けた蒸気暖房。
- ⑤窓／すべて二重ガラスで北国の冬を考慮した当時としては最新式の設備。
- ⑥天井／力強い格天井と色鮮やかな天井紙等が海運業の隆盛を象徴。
- ⑦各室／豪壮な造りの金庫室や支店長室、応接室などとも機能的に調和。
- ⑧2階貴賓室／寄木造りの床、空色漆喰の天井、菊紋内摺セードシャンデリア、菊模様の金唐革紙の壁、絨鍛、鏡付大理石暖炉等で彩られ、家具調度類の配置、また色彩的にも往時の雰囲気がよく伝わってくる贅を尽した華麗な空間。
- ⑨2階会議室／約198平方メートル。広さを強調する吊り天井の大胆な弧を描く装飾彫刻と中心飾り、シャンデリアの光を反射する アカンサス模様の金唐革紙、床を覆う大絨鍛、大テーブルと36個の椅子が悠然として迫力ある時代を感じさる。

■内容

小樽市博物館として運営してきたが、昭和44年に国重要文化財指定を受けた段階で、どうすべきかの議論が庁内で開始され、昭和59年に原形復元修復工事予算が計上された段階で、博物館は物件が見つかるまで閉館。原形復元修復工事完了後は、ナショナル・アセットとして運営を決定。

■コンセプト

管理運営に携わる歴史文化研究所は、来館者に可能な限り館内ガイドをする方針を掲げ、当研究所会員による館内ガイドを実施し、多くの来館者から礼状をいただいている。

■客層

地元では学生の団体が学習のため来館し、観光客では興味を持つ人々やリピーターが多い。



門扉



正面玄関



別館への連絡路観



内玄関

旧日本郵船株式会社小樽支店



支店長室



金唐皮紙の貴賓室



金庫室



日露国境劃定会議の会議室



鉄柱と格天井の1階フロア



1階天井と柱の装飾



繊細デザインの台輪



天井と棧の装飾



貴賓用玄関の大理石



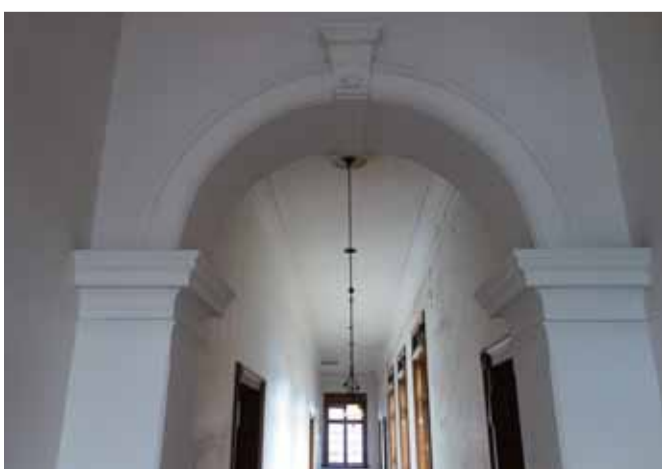
上げ下げ窓



階段と手摺り



美しいフォルムの階段



2階廊下



別館への連絡通路



別館廊下